

3. 子ども支援学科

子ども支援学科では、幼稚園教諭や保育士の養成を主な目的とし、子どもたちの育成指導に関わる基礎・専門知識や技能などを学修する。専門教育科目には、人間開発学部の理念・目的を体現する学部コア科目、本学科における学修の基幹となる科目群である基幹科目、子育てに関する総合的な支援を行い、地域の子育てをリードする人材の育成を目的とする「子ども文化・環境」、「健康・発達」、「地域・福祉」の3つの展開科目を設けている。そして、教育科目内容の理解を深め実践力を養うための演習・実習には、3年次に「演習」があり、4年次の演習・卒業論文の作成指導によって学修の総仕上げを行う。また、教員免許・保育士資格取得を目指す学生にとっては「教育実習」「保育実習」がある。その他、「人間開発」への取組をより幅広く豊かなものとするための多様な関連科目も履修することができる。

【卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

A 知識・技能

- (DP-A1) 建学の精神に基づく日本の伝統文化に関する知識を修得し理解できる。
- (DP-A2) 幼児教育・保育に関する理論的知識を修得し理解できる。
- (DP-A3) 幼児教育・保育に関する実践的知識・技能を修得し理解できる。

B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 幼児教育・保育に関する諸課題を論理的・科学的に考究することができる。
- (DP-B2) 教育・指導の場において自ら判断し体系的な実践指導ができる。
- (DP-B3) 修得した知識・技能を、口頭、文章、身体、作品などの方法で表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 幼児教育・保育に関する課題を探求し、主体的・継続的に学ぼうとすることができる。
- (DP-C2) 教育・指導の実践の場において、人間が持つ多様な資質・能力について理解し、尊重することができる。
- (DP-C3) 教員や学生、或いは地域社会の人々などと連携・協働し、様々な課題について取り組むことができる。

以下の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位（教育学）を授与します。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目群	卒業認定・学位授与方針（DP）									各科目群の教育目標
	知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
学部コア科目	○	◎	○			○				学生は、学部の理念を理解する。
基幹科目		◎	○		○			○		学科に必要とされる専門的な知識と技術を修得する。
展開科目 （子ども支援）		○	◎	○	○					学生は、専門性を養い、得意分野を育成する。
演習・実習科目 （実習系）					◎		○	○	○	教育科目の理解を深め実践力を養う。

演習・実習科目 (演習系)				○		○	◎		○	学修の集大成である卒業論文を作成する。
関連科目		○		○	◎			○		学びの内容をより広く、深く探求する。

【学部コア科目】

人間開発学部の理念、目的を体現する中核的な教育科目群で、すべての学科に共通の必修科目として配置されている。学際的視点によって構築される「人間開発」という本学部の中心理念の基礎理論や「教職論」等の主要科目を学ぶとともに、「人間開発」の基盤をなす本学の建学の精神に基づき「日本の伝統文化」の理解を図る。

【基幹科目】

子ども支援学科において基幹となる固有の教育科目群（選択必修）で、3つの展開科目類への橋渡しとなる性格を有している。幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得するための科目、即ち、教育課程及び保育内容の指導法に関する科目、幼児理解及び教育相談に関する科目等を配当している。

【展開科目】

展開科目類を選択履修することによって、自己の個性と関心に合った得意分野を発見し、その専門性を高めることができる。また、特定の展開科目類に偏らない履修方法も可能である。

I 類「子ども文化・環境」

日本の伝統文化の大切さ・豊かさを子どもに伝えることができる、日本の伝統文化に根ざした幼児教育・保育の環境を構築し、その方法を「開発」することにより、子どもや地域とともに新たな生活文化を創造する幼児教育・保育の担い手の育成を目指す。この類は、「子ども文化論」「あそびと玩具」や「絵本とことば」「色彩とデザイン」などの科目によって構成される。

II 類「健康・発達」

子どもの就学前から就学後に至る発達過程を見通し、子どもに生涯学習の基礎を養うという視点から、子どもの発達と学びを体系的に理解し、子どもの「今」を受容するカウンセリング・マインドを養う。さらには各々の子どもが生活環境の中で直面している諸課題を分析する。特に、特別な配慮を必要とする子どもたちも含めて、健康な発達を遂げることができるよう支援する幼児教育・保育の担い手の育成を目指す。この類は「心の科学」「カウンセリング概論」「臨床発達心理」「障害児保育II」などの諸科目で構成される。

III 類「地域・福祉」

家庭や地域、社会における協働的子育て支援のあり方について多角的に学び、子育て支援のための環境作りに主体的に取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。ここでは、子育て支援に関わる現状と課題を学ぶ「子ども家庭支援論」「ライフイベント論」や子育て支援の基盤となる「子育て支援システム論」などを導入として、子どもを対象とした福祉に関する「社会的養護II」、支援に関する実地体験及び実践的な技術を身につける「子育て支援」「フィールドワーク演習」「子どもと自然体験活動」などの諸科目で構成される。

【カリキュラムの構成と履修方法】

子ども支援学科における専門教育科目の構成とその履修方法は、次のとおり。

科目区分	卒業要件	
学部コア科目	3科目 6単位必修	
基幹科目	2単位必修 30単位選択必修	
展開科目	I類（子ども文化・環境）	4単位選択必修
	II類（健康・発達）	4単位選択必修
	III類（地域・福祉）	4単位選択必修
演習・実習科目	4科目 9単位必修	
関連科目		
合計	74単位以上	

※1 卒業するためには、専門教育科目から74単位以上を修得しなければならない。なお、教育実習・保育実習に関する科目及び教育インターンシップは、要卒単位に含まれない。

※2 開講科目及び卒業要件の詳細は、P55・56のカリキュラム表を参照のこと。

※3 卒業論文の詳細は、P57・58を参照のこと。

※4 教育実習・保育実習は選択制。1年次の履修登録時に、履修登録を行うこと。

※5 教職・資格課程の詳細は、第5章「教職課程」・第6章「資格課程」をそれぞれ参照のこと。

【社会福祉主事(子ども支援学科のみ対象)】

人間開発学部子ども支援学科では、指定された科目の単位を修得することにより、社会福祉主事（任用資格）を取得することができる。

社会福祉主事【厚生労働省】

社会福祉主事は、福祉事務所現業員として任用されるものに要求される資格（任用資格）で、社会福祉施設職員等の資格に準用されている。

社会福祉主事の職務としては社会福祉各法に定める援護又は更生の措置に関する事務を行うものであり、福祉事務所では必置義務（福祉事務所のない町村には任意設置）となっている。社会福祉主事任用資格の必要な職種としては、行政の福祉事務所では現業員、査察指導員、老人福祉指導主事、家庭児童福祉主事、家庭相談員、母子相談員。同じく各種相談所では知的障害者福祉司、身体障害者福祉司、児童福祉司。社会福祉施設においては施設長、生活指導員等となっている。

子ども支援学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、公務員が特定の業務に任用される時に必要となる任用資格を得ることができる。なお、詳細は別途ガイダンス等で説明する。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法	備考
				1	2	3	4		
学部コア科目	人間開発基礎論 (人間力育成の人間学)	半期	2	○				6単位必修	
	教職論	半期	2	○					
	日本の伝統文化	半期	2		○				
基幹科目	子ども支援論	半期	2	○				2単位必修	
	こども生活基礎論	半期	2		○				
	教育の原理	半期	2	○					
	発達と学習(幼)	半期	2	○					
	子ども家庭支援の心理学	半期	2		○				
	保育原理	半期	2	○					
	幼児教育史	半期	2				○		
	教育課程論(幼)	半期	2		○				
	教育と社会	半期	2				○		
	教育相談	半期	2				○		
	特別な教育的ニーズとインクルーシブ社会	半期	2			○			
	幼児と健康	半期	2		○				
	幼児と人間関係	半期	2		○				
	幼児と環境	半期	2		○				
	幼児と言葉	半期	2	○					
	幼児と表現	半期	2		○				
	保育内容(健康)	半期	2				○		
	保育内容(人間関係)	半期	2				○		
	保育内容(環境)	半期	2			○		30単位選択必修	
	保育内容(言葉)	半期	2			○			
	保育内容(表現)	半期	2			○			
	保育内容総論	半期	2			○			
	ピアノ実技A	半期	1		○				
	ピアノ実技B	半期	1		○				
	保育方法論	半期	2				○		
	幼児理解の理論と方法	半期	2		○				
	教育の方法と技術(幼)	半期	2				○		
	子どもの保健	半期	2	○					
	子どもの健康と安全	半期	2	○					
	障害児保育Ⅰ	半期	2		○				
	乳児保育Ⅰ	半期	2		○				
	乳児保育Ⅱ	半期	2		○				
	教育の統計	半期	2				○		
社会福祉	半期	2	○						
子ども家庭福祉	半期	2	○						
社会的養護Ⅰ	半期	2			○				

(次ページに続く)

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法	備考		
				1	2	3	4				
展開科目	I類 (子ども文化・環境)	子ども文化論	半期	2		○			4単位選択必修		
		リトミック	半期	1		○					
		保育内容研究	半期	2				○			
		あそびと玩具	半期	2						○	
		うたとオペレッタ	半期	2			○				
		色彩とデザイン	半期	2			○				
		絵本とことば	半期	2			○				
	II類 (健康・発達)	心の科学	半期	2	○				4単位選択必修		
		カウンセリング概論	半期	2			○				
		臨床発達心理	半期	2				○			
		人間形成の心理学	半期	2				○			
		子どもの食と栄養Ⅰ	半期	2		○					
		子どもの食と栄養Ⅱ	半期	2			○				
		障害児保育Ⅱ	半期	2		○					
	III類 (地域・福祉)	子ども家庭支援論	半期	2		○			4単位選択必修		
		社会的養護Ⅱ	半期	2			○				
		子育て支援システム論	半期	2				○			
		子育て支援	半期	2				○			
フィールドワーク演習		半期	2				○				
ライフイベント論		半期	2				○				
子どもと自然体験活動		半期	2				○				
演習・実習科目	専門基礎演習	半期	2	○				9単位必修			
	演習	半期	2			○					
	演習・卒業論文	通年	4				○				
	野外活動実習	集中	1	○				自由科目（要卒単位外）			
	教育インターンシップ	半期	2				○				
	教職実践演習	半期	2						○		
	教育実習ⅠA（事前指導）（幼）	半期	1		○						
	教育実習ⅠB（事後指導）（幼）	半期	1			○					
	教育実習Ⅱ（幼）	半期	2			○					
	教育実習Ⅲ（幼）	半期	2			○					
	保育実習指導ⅠA	半期	2		○						
	保育実習指導ⅠB	半期	2			○					
	保育実習Ⅰ（保育所）	半期	2			○					
	保育実習Ⅰ（施設）	半期	2			○					
	保育実習Ⅱ（保育所）	半期	2			○					
	保育実習指導Ⅱ（事前指導）	半期	2			○					
	保育実習指導Ⅱ（事後指導）	半期	2				○				
	保育実習Ⅲ（施設）	半期	2			○					
保育実習指導Ⅲ（事前指導）	半期	2			○						
保育実習指導Ⅲ（事後指導）	半期	2				○					
関連科目	人間開発学特殊講義	半期	2		○						
	摂食のしくみと食育	半期	2			○					
	臨床教育学	半期	2			○					
	メンタルヘルス	半期	2			○					
	学校・学級経営論	半期	2			○					
	発育期の健康と運動	半期	2			○					
伝統文化と生活論	半期	2				○					

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※ 開講時期は年度により、変更される場合がある。